

県オリジナルイチゴ「あまクイーン」への培地加温で寒さ対策

「あまクイーン」は、良食味で極早生の品種である。しかし、低温により草勢が低下しやすいため、兵庫方式高設栽培への温床線挿入による培地加温を検討した。その結果、草勢維持と収量向上が可能であることが明らかになった。

内容

「あまクイーン」は冬季の低温で草勢が低下しやすく、一般的な他の品種よりも暖房を必要とする。そこで、兵庫方式の高設栽培に温床線を挿入し、培地のみ局所加温することで、「あまクイーン」の草勢維持を検討した。

2017年9月中旬に苗を定植した。培地加温は18℃及び13℃設定で12月上旬から開始し、培地加温なしと比較した。ハウス内の暖房開始温度は8℃、日中換気開始温度は28℃とした。調査は12月上旬～3月末まで行った。

その結果、培地加温区の地温は加温なし区より高く推移し、冬季の平均培地温も設定温度の順に高くなった(表)。草丈は、加温開始前の11月下旬調査では各区とも15cmとほぼ同等であったが、

厳寒期の1月下旬には、加温なし区の約13cmに対し、18℃加温区では約20cm、13℃加温区では約15cmと高くなり、加温により草勢が強くなった。開花は、加温によって早く、揃いそろがよくなる傾向がみられ、特に第2えき腋花房で顕著であった(図1)。また、調査期間内の収量は、設定温度が高いほど多くなる傾向であった(図2)。

以上から「あまクイーン」を他の品種と同じ低めの加温設定で栽培する場合、培地の局所加温により草勢が維持でき、収量が向上することが分かった。

今後の方針

培地加温をする場合、その年の気象条件や草勢を加味しながら、より適した設定温度や加温終了時期を検討していく必要がある。今後、その際の草勢判断のための生育指標を明らかにしていく予定である。

山本 晃一 (農産園芸部)

(問い合わせ先 電話：0790-47-2423)

表 冬季培地加温稼働期の地温

加温設定	最高(℃)	最低(℃)	平均(℃)
18℃加温区	23.3	9.4	16.2
13℃加温区	21.2	8.5	14.3
加温なし区	19.4	8.1	12.0

※調査期間は12/5～2/28

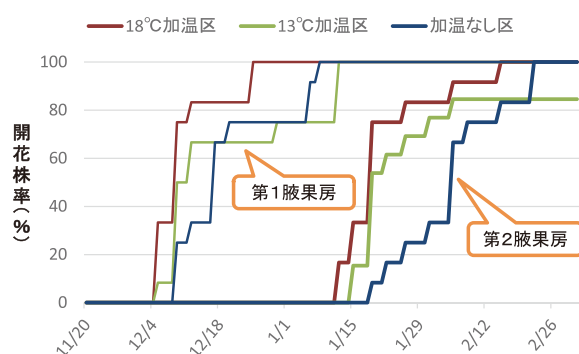


図1 開花株率の推移

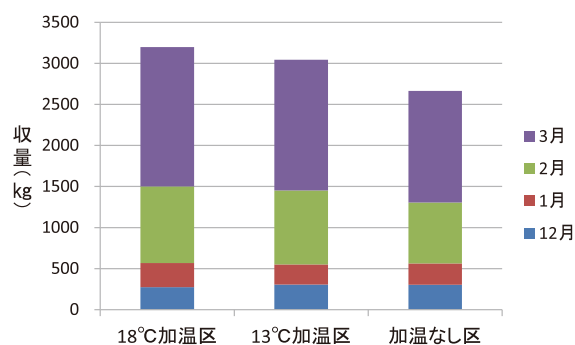


図2 月別収量の比較 (10a 当たり)